



徳島県の中小企業における 新卒採用で大切な3つのこと



楠本 智美 徳島県よろず支援拠点コーディネーター

中小企業のあらゆる経営上の悩みに対応するため、(公財)とくしま産業振興機構内に「徳島県よろず支援拠点」を開設しています。皆様のお役に立ちそうな支援内容を「徳島県よろず支援拠点」のコーディネーターが交代で紹介していきます。

徳島県内の企業を訪問すると、「自社に興味を持つ若者が少ない」という声をよく耳にします。県の総人口は約70万5千人(令和6年推計)と減少が続き、地域経済の活力維持のためには「若者の地元定着」が重要です。

しかし、若者の県外流出は深刻で、四国経済連合会の調査によると、徳島県の高校生の56.7%が県外進学を希望しており、これは四国で2番目の高さとなっています。

とはいえ、「中小企業では学生に振り向いてもらえない」と諦める必要はありません。パーソル総合研究所の調査などを読み解くと、学生の価値観と就職行動は大きく変化しており、そこにこそ中小企業のチャンスがあります。本稿では、徳島県の中小企業が新卒採用で取り組むべき3つのポイントを提案します。

始める学生は2割。徳島の高校生は半数以上が県外進学し、都市部の企業情報に触れる機会が圧倒的に増えるためです。

だからこそ、中小企業は高校生の段階から接点をつける採用戦略への転換が求められます。

- 高校向けキャリア教育への積極的参加
- SNSを活用した「リアルな会社の姿」の継続的発信
- 進学後も追いかける情報提供の構築

「徳島にも面白い会社がある」という認知の種まきが、将来のUターンへの入口となりえるのです。



Ⅰ. 「早期認知」と「関係構築」を戦略化する

学生は企業を知らなければ選べません。四国経済連合会の調査では、徳島県の高校生の48.9%が「働きたい地元企業が分からない」と回答。事業内容まで知っている企業が「ゼロ」の生徒は30.8%にも上ります。

認知不足は将来のUターン志向にも関わっており、四国全県を合わせた高校生のうち「働きたい地元企業がある」生徒は67.0%が地元志向である一方、「ない」生徒では49.5%が「住みたくない」と回答しています。地元で働くイメージを持てるかどうかは、将来の居住意向に影響を与える要素の1つであることがうかがえます。

採用活動の主戦場と考えられがちな大学3年生では、すでに遅い可能性があります。大学2年の冬に就活を



Ⅱ. 徳島の「QOL」と「働き方」を価値として提示する

パーソル総合研究所の調査によると、現代の学生は従来重視されていた「成長したい」「やりがいを感じたい」「尊敬できる上司の下で働きたい」といった動機が低下。代わって最も重視されるのは「仕事とプライベートの両立」「働きやすさ(場所の融通など)」でした。

つまり、曖昧な情緒的価値より生活の質(QOL)を重んじる方向へとシフトしています。

ここに徳島の中小企業の強みがあります。

- 満員電車とは無縁の通勤環境
- 地元根差し、転勤リスクが低い
- 残業が少なく、家族や趣味の時間が確保しやすい

四国経済連合会の調査では、「一度県外へ出て地元で暮らしたい」という高校生は37.9%と、Uターン予

備軍は確実に存在します。彼らに刺さるのは、都市部では得にくい“徳島ならではの暮らしと働き方”の提案です。

最も現実的で温かい道筋となり得るのではないのでしょうか。

Ⅱ 3. 「見極め」から「巻き込む採用」へ

採用プロセスそのものも転換が求められています。インターンシップ参加率は68.3%と高まり、学生は職場のリアリティを重視しています。入社を決め手となるのは、「職場の雰囲気が実感できたか」や「社員同士のコミュニケーションが自然か」といったものです。社員の自分に対する言動以上に、「社員同士のやりとり」を観察しており、そこからその企業の組織文化を推測しているのです。学生は「建前」に敏感で、タテマエを感じるほど入社意欲は低下します。つまりありのままを見せることが信頼獲得の最強戦略なのです。

中小企業に求められるのは、

- 飾らない職場体験の提供
- 良い面も課題も誠実に伝える
- 一人ひとりに丁寧なフィードバック

これは大企業では真似しにくい中小企業ならではのインターンシップ。学生と共に働く理由をつくる「巻き込む採用」こそ、中小企業の活路です。

【情報ソース】

四国経済連合会「企業の教育への関わり方に関する調査」
https://yonkeiren.jp/pdf/20250529_honpen.pdf

パーソル総合研究所「新卒就活の変化に関する定量調査」
<https://rc.persol-group.co.jp/wp-content/uploads/thinktank/data/job-hunting.pdf>

著者略歴：楠本 智美（くすもと・ともみ）

kurikuri お菓子の会（主催）

得意分野：商品開発／食品衛生／創業支援

保有資格：キャリアコンサルタント／管理栄養士
製菓衛生師



Ⅱ おわりに

徳島での採用環境は確かに厳しくなっています。しかし、学生の価値観の変化は、中小企業にとってチャンスでもあります。

- ① 早期に認知を獲得し、関係をつくる
- ② 徳島ならではの暮らしやすさを価値として示す
- ③ リアルな職場体験で信頼を築く

これらの取り組みを地道に積み重ねることが、徳島の未来を担う若い才能と結びつきを築いていくための、

よろず支援拠点の連絡先は以下のとおりです。

徳島県よろず支援拠点

徳島県徳島市南末広町5番8-8

徳島経済産業会館2階

HP <https://yorozu-tokushima.go.jp/>

電話 088-676-4625

よろずにコー

受付時間

【平日】9:00～17:45

【休日相談会】

●第1・第3土曜日 10:15～17:00 徳島市産業支援交流センター（アミコビル9F）

●隔週日曜日 10:00～17:00 徳島駅前ポッポ街

（最新情報を確認して下さい）



価格転嫁等に関する経営相談窓口を設置しております。相談希望の方は上記、徳島県よろず支援拠点にご連絡ください。